

編集後記

2005年10月1日に、阪神高速道路公団は民営化され、阪神高速道路株式会社となりました。1981年に創刊した「技報」は、今回で第24号となりますが、阪神高速道路株式会社としての「技報」は、この号が2号目となります。

創刊時～90年代前半は、計画部門および橋梁を中心とした建設部門に関する論文が数多く掲載されてきました。これが90年代後半からは、トンネルや地下構造物を中心とした建設部門、維持管理部門および環境対策部門が増え、最近では公共事業を取り巻く諸状況に呼応し、コスト縮減を図る技術、構造物の延命化を図る維持管理技術等、効率的な事業執行に寄与する技術の紹介が多くなってきています。これらを見ると、その時々々の社会情勢を反映していることがうかがえます。また、阪神高速道路株式会社においては民営化を経て、お客様サービスのますますの向上を目指しており、この実現のため渋滞対策等に効果的な交通工学部門の技術や、安全・安心な走行を提供する構造物の維持管理技術の紹介も多くなってきております。

このような傾向の中、今回の「技報」では、トンネル・橋梁の設計施工技術、鋼床版疲労損傷対策、交通管制技術等に関する論文が掲載されています。それらには、これまで発生してきた課題やその解決方法が紹介されております。これを読んで頂いた多くの技術者が、今後の技術を発展させていくうえでの一助になれば幸いです。

最後になりましたが、「技報」第24号の発刊にあたりまして特別論文を執筆していただきました大阪大学名誉教授 松井保先生、巻頭言を執筆いただきました阪神高速道路株式会社中林正司執行役員をはじめ、論文執筆者ならびに編集委員、幹事の方々には多大なご苦勞をおかけいたしました。厚く御礼申し上げます。

((財) 阪神高速道路管理技術センター 調査研究部)